

インターネット掲示板「2ちゃんねる」と「イルベ」に現れる

ヘイトスピーチの意味考察

Study of hate speech in the Internet bulletin board "2 channel" and "ILBE"

金 善映¹
Kim Sunyoung

¹筑波大学大学院 人文社会科学部 博士後期課程 Graduate School of Humanities and Social Sciences, Tsukuba University

要旨…グローバル化と新自由主義が進展する中、日韓両国の社会において、「2ちゃんねる」と「イルベ」という極右サイトと、文化的他者との間には「こっち側」と「向こう側」の「境界」が一層強固なものになってきている。日本における「2ちゃんねる」では在日韓国・朝鮮人を、韓国における「イルベ」では、左派や特定地域、北朝鮮、女性を他者化している。これらのサイト上における扇動的な意見と現象は、本来の意図を離れて公衆にとって重要な争点となり、ひいては社会的問題として浮き彫りになってきている。本研究は、このような現状に着目し、日韓両国の社会問題の一つと言われるようになった、いわゆる「ヘイトスピーチ」言説を事例にししながら、そのヘイトスピーチ言説を生み出す社会的背景や、その要因を明らかにすることである。

キーワード ヘイトスピーチ, ナショナリズム, 2ちゃんねる, イルベ, KHコーダー

1. はじめに

2000年代に入る頃から日本では「2ちゃんねる」などで、日本社会における文化的他者とされる、在日韓国・朝鮮人に対して差別をあおる、いわゆる「ヘイトスピーチ」が目立ち始めた(樋口直人, 2014)。2013年の新語・流行語大賞にノミネートされた「ヘイトスピーチ」なる現象は、年を追うごとに重大なものになっており、社会的な問題として注目を集めている。このような情勢の中、今年5月13日、参院本会議において、「ヘイトスピーチ(憎悪表現)解消に向けた推進法」が可決され、24日には衆院本会議で全会一致により可決、成立した。近年、韓国の2ちゃんねると言われる「日刊ベスト貯蔵所(以下、イルベ)」電子掲示板では、民主化運動が激しかった地域の1つである全羅道地域をはじめ、左翼、北朝鮮、女性へのヘイトスピーチなどで社会的な議論の中心に立っている。では、インターネットを介したヘイトスピーチ現象が日韓両国において同時期に共同的に起こっている社会的背景には何があるのだろうか。また、その現象が「2ちゃんねる」と「イルベ」の思考体系において共有される「コード」とどのような関連性を持っているのか。ネット空間におけるヘイトスピーチの問題はネットの利用者の不安を招く場合があるため、欧米の研究者の間でも大変注目されているテーマであるが、議論の流れやその要因について解明した研究は管見の限り見当たらない。

2. 研究目的と方法

(1) 研究目的

本研究では、日本の「2ちゃんねる」掲示板と韓国の「イルベ」掲示板において、主に現れているネタと他者化されている対象を調べる。次に、「2ちゃんねる」と「イルベ」の思考体系において共有される「コード」(code)、つまり、これらの掲示板の思考体系を動かす「心理的なメカニズム」が何かを考察していく。

(2) 研究方法

「2ちゃんねる」掲示板における分析時期は2015年10月25日から11月14日の期間のスレッドを「過去ログ倉庫」から収集した。この週は韓国のソウルで日韓中首脳会談が開催されており、日韓間での最大の懸案の一つである慰安婦問題をはじめとする領土問題や歴史問題などが取り上げられた。この週と重なってネット上で特定の対象(個人、団体)の話題で膨大な「書き込み」

(レス)が殺到する、いわゆる「祭り」が起こったのは、日韓中首脳会談の談論は政治家やメディアだけではなく、ネット右翼層にも重要な懸案であることを如実に示した。次に、「ハングル板」では多様なトピックを扱っており、嫌韓的な言説を扱っているスレッドである、「余命三年時事日記」「韓国経済動向」「高木大姐研究」などを中心にデータを収集した。スポーツ、芸能等のスレッドを除外し、22個のスレと12,153個の書き込みを分析対象とした。韓国側の資料としては、「イルベ」の掲示板における「政治日刊ベスト板」を分析対象とした。分析時期を設定するにあたって、前述した「2ちゃんねる」掲示板とは異なるアプローチを用いて分析を行った。「イルベ」掲示板は「2ちゃんねる」掲示板に比べ開設時期や歴史が短く、「イルベ」掲示板を対象として、特定の対象(個人、団体)の話題で膨大な「書き込み」(レス)がある週間のいつ頃最も殺到したかを示す、いわゆる週間「祭り」ランキング調査が現在までのところ、行われていない状況である。本研究では、ユーザーから推薦数が多いスレに着目し、分析を行った。推薦数は各板の右横に赤い色で表示されている。ユーザーから最も推薦を受けていたスレは、最上位に自動並べ替えが行われており、順位が更新されるたびに自動的に並べ替えられる。スレの右横に推薦数値が多ければ多いほど、ユーザーから「イルベ」ボタンを最も多く押されたことを意味する。換言すると、「他のユーザーもそのスレについて共感している」とか、「いいね!」をするということを意味する。ここにおいて、ユーザーから推薦数が多いスレは、ユーザー間でどのようなネタが最も多く消費され、共感されているかを把握するだけではなく、ユーザーの思考体系が読み取れる有効な指標だと言える。そこで、「政治日刊ベスト」掲示板でもより多くのユーザーに推薦数を受けた上位22個のスレと16,480個の書き込みを分析対象とした。

本研究では研究方法としてKH Coderを使用、樋口耕一の社会調査のための計量テキスト分析(2014)を参考した。また、集まったデータに対して量的分析と質的分析の2つの方法を用い、量から質の順で分析するミックス法を採用した。まず、量的分析として用いたのは「共起ネットワーク」である。次に、本研究における分析の妥当性(validity)と信頼性(reliability)を高めるために、本研究では質的分析として、「ハングル板」と「政治日刊ベスト」における膨大な書き込みを分析した。これは、ユーザーの行動に潜む心理的なメカニズムを解き明かすことができると考えられる。最後に、その結果を踏まえて質的分析を行った結果として、今回対象とした期間で繰り返し見られた表象について、当時の時代背景や先行研究の知見から考察した。

3. 分析の結果

共起ネットワーク分析からもある程度主なネタをうかがい知ることができるのだが、より詳細な分析のために、共起ネットワークの分析結果の下に、主なネタを細分化したところ、表1、2の通り、4つのグループに分けられた。

(1) 「2ちゃんねる」掲示板の「ハングル板」における主なネタ

グループ1は「首脳会談」に関するネタを形成している。第一に、日韓最大の懸案である「慰安婦」は出現頻度の多い語句として大きいバブルで描画されており、この語句を介して多くの語句につながりがあると分かる。今回の首脳会談で両国は旧日本軍による従軍慰安婦問題の早期妥結を目指して協議を加速させることで一致したため、共起ネットワークで「合意」「妥結」「年内」「早期」「日本政府」「謝罪」「賠償」「責任」という語句が特徴的に表れていた。第二に、「南シナ海」「李首相」「日中」「外相」などが特徴的な語句として表れていた。最近アジア太平洋地域の安全保障問題として浮上した「南シナ海」問題は、今回の首脳会談においても最大の懸案の一つでもあった。これを受け、「ハングル板」においては、南シナ海に対する中国の領有権主張や人工島の建設をめぐる問題が取り上げられていた。第三に、「昼食」という語句が目立っており、共起ネットワークの分析から表れた特徴語をもとに、関連書き込みを確認してみた。韓国側が日本政府が求めた会談後の昼食会開催を拒否した事と関連して、ネットユーザーから興奮の声が漏れていたことがわかる。

グループ2は「在日朝鮮人」に関するネタである。「在日朝鮮人」という語句を中心として、「特別永住」「人種」「差別」「国籍」「制度」「犯罪」「不法」「難民」など多くの語句とのネットワークを有している。ここで、注目したいのは、「特別永住者」という語句を使い、「在日朝鮮人」のイメージが表象されていたという点である。在特会が在日朝鮮人を排外する理由中の一つとして特別永住者制度¹が挙げられる。「2ちゃんねる」掲示板においても「特別永住」という語句が特徴語であることを考慮すると、「特別永住権」はヘイトスピーチを煽る素材として根深く位置づけられていたということが読み取れる。

グループ3は「ユネスコ」に関するネタである。「ユネスコ」「遺産」「世界」などの語句が目立っていた。関連特徴語を参

¹ 別永住制度とは、「平和条件国籍離脱者入管特例法」によって認められた資格である。他の外国人にはこのような資格は与えられておらず在日韓国人・朝鮮人を対象に与えられた権利と言える。紛れもない外国人でありながら、日本人とほぼかわらぬ生活が保障されている。

照しながら書き込みを確認してみた。ユネスコ(国連教育科学文化機関)による「明治日本の産業革命遺産」を世界文化遺産に登録する過程で韓国や中国から反発を受けて以来、「2ちゃんねる」ユーザーから袋叩きになっていた。朝鮮人強制労働問題をめぐる日韓間の確執が浮き彫りになった時点は2015年7月であったにもかかわらず、ネチズンの怨嗟の声は収まらず、嫌韓ムードが一段広がったということが読み取れる。

グループ4は「経済」に関するネタである。「金融」「スワップ」「危機」「通貨」という一連の語句がつながっている。関連特徴語を参照しながら書き込みを確認したところ、この時期に全国経済人連合会(以下、全経連)と日本経団連が日韓通貨スワップの再開問題を含めた両国の経済協力案を議論したことがわかる。

表1 ハングル板におけるネタ

グループ	ネタ	主な使用語	特徴
1	首脳会談	①慰安婦：解決、合意、日本、政府、謝罪、賠償、責任 ②李首相：南シナ海、歴史問題、歴史認識、懸案、日韓中 ③昼食：日本側、韓国側、立場、当局	昼食会を催さない韓国を非難
2	在日朝鮮人	①特別永住、不法、差別、憲法、法案、安保、国会、警察、事件、デモ、外国人、難民、テロ、人種 ②チョン、バカ ③嫌韓、感情	在日朝鮮人に対する嫌悪
3	ユネスコ	産業、世界	ユネスコの世界文化遺産の登録をめぐり、「強制労働」を声明に盛り込もうとした韓国側を不信
4	経済	金融、危機、市場、通貨、スワップ	通貨スワップの再開を求めた韓国側を非難

(2) 「ハングル板」において他者化されている対象

これまでの分析結果を通じて2ちゃんねる掲示板の「ハングル板」における顕著なネタを整理すると以下の通りである。まず、当時最も重要な社会的アジェンダの中の一つであった首脳会談に関するネタが大きな比重を占めていた。次に、「在日朝鮮人＝特別永住者」という言説フレームは「不正犯罪の温床」や「不法難民者」などの否定的な言説フレームと共鳴していくということが分かった。以下では、在日朝鮮人や朝鮮人のイメージはどのような形で構成され、再生産されていたかを究明するため、関連語検索を通じて把握した。図1²は「在日朝鮮人」「朝鮮人」に対する共起ネットワークを示したものである。

第一に、「在日朝鮮人」という語句を中心として、「日本人」「強制」「犯罪」「反日」「バカ」「チョン」「差別」「歴史」「政治」など多くの語句とのネットワークを有している。「在日朝鮮人」や「朝鮮人」に分類される像の中で、「犯罪」「反日」「バカ」「チョン」「差別」などの語句が目立っていたところから、「在日朝鮮人」や「朝鮮人」に対する「否定的な他者表象」(negative other representation)が溶け込んでいたことがわかる。次に、「特別永住」という語句は「特権」「制度」「難民」「テロ」という一連の語句がつながっていた。その中で、「特別永住」と「特権」という語句間には強い共起関係を見られた。その他、「マイナンバー」という語句も目立っていた。関連書き込みを参照したところ、2016年1月から施行されるマイナンバー制度で脱税や生活保護の不正受給をしている在日朝鮮人を一斉にあぶりだすことができるというコメントが多数寄せられた。

第二に、「民主党」「自民党」など政党に関する語句が目立っていた。まず、「民主党」という語句は「法案」「国益」「要因」など一連の語句とつながっていることがわかる。共起ネットワークの関連語結果から得られた手がかりをもとに、関連書き込みを確認してみた。「民主党」が2ちゃんねるの「ハングル板」に袋叩きになっており、これは、民主党が在日朝鮮人と結託し、在日朝鮮人に国民の税金を流す政策、すなわち、生活保護受給・不正受給、外国人参政権など、在日朝鮮人に有和的な政策を進めたためである。また、大半のユーザーは「生活保護制度＝在日朝鮮人を対象に与えられた特権」「生活保護制度＝在日朝鮮人優待政策」とみなしていた。その背景では、生活の困窮した自国民が多いはずなのに、在日という理由だけで国

² Jaccard係数0.1以上のリンクを共起関係として分析した。

民年金が無条件に免除されることは「無賃乗車」または、「税金泥棒」という認識が根深く存在していたからである。その他、民主党政権の経済政策に対して失望し、懐疑する書き込みが散見されたことも特徴として挙げられる。

第三に、「左派」という語句は「NHK」「特権」という語句と共に関係を見られた。既存の大手メディアは韓国に対し、融和的・好意的な報道が多いという論点と共に、クレームや批判を恐れ、画一的であり、横並びの報道を行っているという論点が読み取れた。

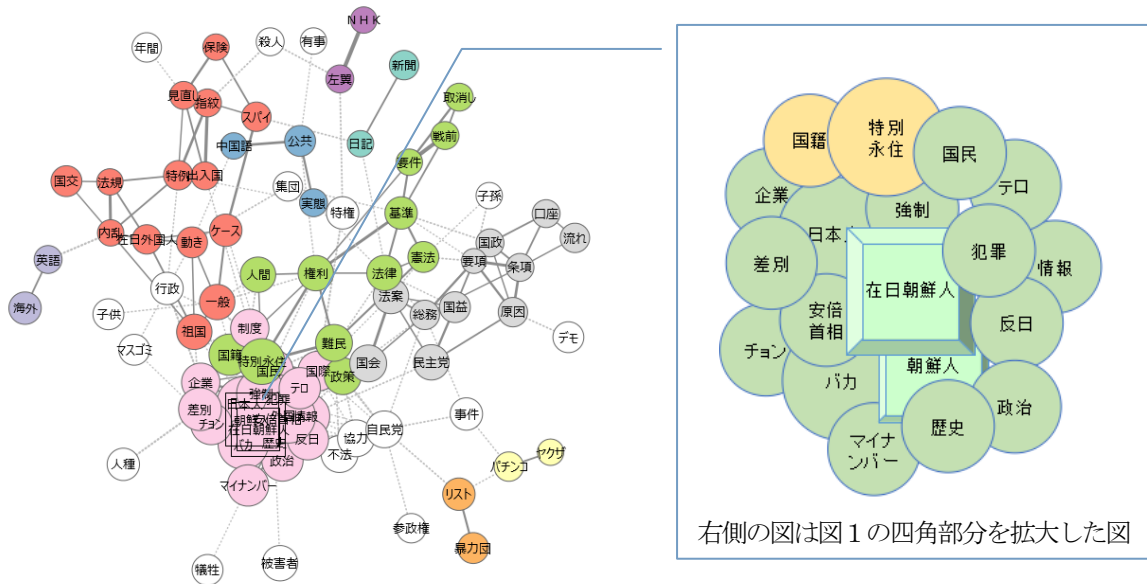


図1 「在日朝鮮人・朝鮮人」に対するハングル板の共起ネットワーク

(3) 「イルベ」掲示板の「政治掲示板」における主なネタ

グループ1は「理念間の葛藤」に関するネタを形成している。ネット世論を二分する「保守」と「進歩」、「左派」と「右派」の対立が深刻化することがわかる。その論拠として、韓国国内の左派勢力および民主党を卑下することに焦点が置かれている点が挙げられる。第一に、「左派」「狂牛病」「扇動」の語句が非常に強く関連し合うことが目立っていた。李明博政権が2008年4月になってはじめて米国産牛肉輸入をし、当時MBCテレビの「PD手帳」という番組では米国産牛肉の危険性を集中的に取り上げた。これが起爆剤となり、2008年5月から3ヶ月間、100万人が「米国産牛肉輸入反対蠟燭デモ」を行い、李明博政権に対する批判と退陣要求への争点に浮上した。政治掲示板における共起ネットワーク分析の結果から、米国産牛肉を食べれば、狂牛病(BSE)にかかるという現象は、当時李明博政権を追い詰めるための左派勢力の扇動によるものという見解が読み取れる。第二に、「3人兄弟」は「地獄」「面白さ」「時節」という語句間には強い共起関係が見られた。共起ネットワークの分析から表れた特徴語について関連書き込みを参照しながら見ていく。ここで「3人兄弟」とは、左派大統領であった「金大中」「盧武鉉」元大統領と北朝鮮の「金正日」国務委員長を言う。李明博政権の際、3人の政治家の死去と関連し、「3人兄弟を地獄に送って太平の世の中が開かれることになった」という書き込みが多数あった。抽出語上位100語においても「金大中」(321件)、「盧武鉉」(297件)、「金正日」(86件)の出現頻度が高かったことが分かった。特に、北朝鮮の「金正日」国務委員長より、「金大中」や「盧武鉉」元大統領に対して言及するネタが相対的に顕著であることが読み取れる。

グループ2は「地域感情」に関するネタを形成している。「全羅道」と「ガンギエイ」の語句が非常に強く配置されていることが分かる。また、「ガンギエイ」と「民主化」語句間には強く関連し合うことが目立っていた。「イルベ」掲示板において「民主化」という語句は本来と異なる意味で使用されていた点に注目する必要がある。ここで、「民主化」とは、「反対」「NO」「押さえ込む」という意味で使われている。民主化という言葉をあらゆる否定的意味に転用して使うというルールがイルベユーザーの間で定着してきたためだ。これは、民主化を業績とみなす左派と民主化勢力に対する反感と解釈できる。上述した通り、「民主化」という語句は本来の意味とは異なり、否定的な意味が含蓄されていることを考慮すると、「全羅道」=「ガンギエイ」=「民主化」という構図が形成されていることがわかる。

グループ3は「反北朝鮮」に関するネタを形成している。「全元策」という語句がネットワークの中心になっていて、「金

日成」「金正日」「金正恩」「放送」「自由」「バルゲンイ³」「従北（親北）」「勢力」「雲芝⁴」など多くの語句とつながっていた。これは、2012年5月26日KBSの「深夜討論」という番組で全元策弁護士が出演し、「金正日は畜生である」と発言したのがマスコミだけでなく「イルベ」ユーザーの間でも話題になっていたことがうかがい知れる。

グループ4は「独裁政権時代へのノスタルジア」に関するネタを形成している。「朴正熙」という語句は「経済」や「独裁」という語句と破線で結ぶことが分かる。第一に、「経済成長の神話」に関する共起ネットワークである。「経済」という語句を中心として、「中小企業」「大企業」「輸出」「産業」「発展」「開発」「成長」などの語句のつながりがあることがわかる。第二に、「独裁」に関する共起ネットワークである。「独裁」は「独裁者」「時代」「英雄」「革命」「クーデター」「民主主義」「共産主義」といった語句と結ばれていることがわかる。関連書き込みを確認してみた結果、朴正熙元大統領を貧困と混乱の中の英雄として表象していた。グループ4においては、朴正熙元大統領の神格化が強調する傾向が読み取れる。共起ネットワーク分析の結果をもとに考えてみると、朴正熙元大統領へのノスタルジアの背景には経済成長に関する神話が大きな影響を及ぼしていることが示唆された。

表2 政治掲示板におけるネタ

グループ	ネタ	主な使用語	特徴
1	理念間の葛藤	①左派：狂牛病、扇動、病身 ②3人兄弟：地獄、面白さ	左派・民主党に対する不満 李明博・朴正熙元大統領の神話
2	地域感情	全羅道：ガンキエイ、民主化	全羅道地域卑下
3	反北朝鮮	全元策：北朝鮮、金日成、金正日、金正恩、放送、バルゲンイ、従北、雲芝	従北（新北）思想嫌悪
4	独裁政権時代へのノスタルジア	①経済：中小企業、大企業、産業、輸出、開発、政策、発展 ②独裁：独裁者、時代、英雄、革命、クーデター、民主主義、共産主義	経済成長に関する神話

(4) 「2ちゃんねる」と「イルベ」の思考体系を動かす「コード」(code)

これまでの分析をもとに、以下では、日韓両国においてヘイトスピーチ現象を生み出す要因と共に、「2ちゃんねる」と「イルベ」の思考体系を動かす「コード」(code)、つまり「心理的なメカニズム」は何かについて、最後に考えてみたい。

第一に、リサーチ・クエスション1の研究結果から、日韓の両板のユーザーとヘイトスピーチの対象との二項対立の間にある「境界」には「無賃乗車」というコードが潜むことが読み取れる。ユーザーの間に在日朝鮮人は「特別永住権」と「生活保護制度」を利用し、日本の福祉政策に「無賃乗車」をしているという認識が根深く存在しているということが書き込みから確認できた。この点から「2ちゃんねる」掲示板で在日朝鮮人への嫌悪は無賃乗車に対する憎悪を在日朝鮮人・朝鮮人に一方的に投写したと解釈できる。「イルベ」掲示板で「5.18 光州事件」「セウォル号事件」の遺族や「北朝鮮」に対して「税金泥棒」というレッテルを貼るのも一種の無賃乗車への嫌悪と言える。これは、自分たちがマジョリティでありつつも、「想像された(imagined)強者であるマイノリティ」-「われわれ」の権利を侵害し「権利を得ている(と想像する)マイノリティ」や「マジョリティと同等の権利を持つ(と想像する)マイノリティ」-によって被害を受けているという「被害者意識」が根底にあるためであろう(山崎 2015:12-13)。

第二に、2ちゃんねるのユーザーと文化的他者である「朝鮮人・在日朝鮮人」との二項対立の間に存在する「境界」の中には、歴史修正主義の台頭や東アジアの情勢が複雑に絡み合っている。「ハングル板」における主なネタは、首脳会談後の昼食会をめぐる韓国側の態度、日本の世界文化遺産問題をめぐる日韓の歴史認識の対立、南シナ海や竹島・獨島の領有権をめぐる紛争などで明らかになった。このような近隣諸国との歴史的関係をめぐる問題はナショナリズムを煽るようなネタとなっており、それに在日特権というレッテルを貼りインターネット上で朝鮮人・在日朝鮮人を他者化している形で表出されていた。また

³ 韓国では親北朝鮮系や左翼的な考え方を持つ人々に対して「バルゲンイ(アカ)」と呼んでいる。

⁴ 「雲芝」とは、盧武鉉元大統領の逝去を皮肉る言葉であり、2009年、自宅裏山の「フクロウ岩」から飛び降り自殺を雲芝泉(ウンジジョン)という名前の栄養ドリンクCMでパロディされたことから始まっていた。「イルベ」掲示板における「雲芝」という語句は「死ぬ」という意味で主に使用されている。

「イルベ」掲示板におけるヘイトスピーチ現象は、「進歩」対「保守」という二項対立的な構図から始まると言える。こうした理念対立は、韓国社会でのみ通用されることができるとの特殊性が反映されている。例えば、慶尚道＝セヌリ党(保守)、全羅道＝共に民主党(進歩)という極めて明確な「地域政党構造」、親北＝進歩、対北強硬＝保守という「対北政策観」、分配・福祉優先＝進歩、自由・成長優先＝保守という「経済政策観」がある。「進歩」と「保守」という理念間の対立や葛藤は特定人物・特定政党への憎悪や地域感情をあり、さらに自分と異なる理念や思想を持った人あるいは集団を否定するような空気が読み取れた。

第三に、日韓両国においてヘイトスピーチ現象は、上で取り上げられた無賃乗車や被害者意識、歴史問題や理念対立のみで把握できない、限界性があると考えられる。ヘイトスピーチ現象は、表面的に「在日朝鮮人・朝鮮人」「戦後民主主義」「メディア」「左派」「エリート主義」「民主化運動で中心的な役割を果たした 386 世代」「北朝鮮」などを他者化するように見えるが、その本質は国家権力に対する広範な怒りが潜んでいたり、逆に過剰で偏った愛国心に向けられていたりしていると言える。例えば、セウォル号の惨事がユーザーの哀悼と悲しみを超えて怒りを買った根本的な原因は、乗客を見捨てて逃げた船長をはじめとするセウォル号事故を起こした船の運航会社の実質的オーナー、兪炳彦一家ではない。それは「国家に対する怒り」である。その国家は、政府の危機対応能力に対する信頼の墜落と国家統合システムの不在・不法・脱法・不正を知っているが目をつぶった官民癒着、セウォル号事故の報道に関連し「人間的興味」というフレームを多用したメディアなど、総体的な意味における「国家」を言う。同様に、「2ちゃんねる」の場合でも「日本人」というアイデンティティの確立やプライドの回復を阻害する対象、すなわち、理想的な国家実現や国家再建を阻む対象である在日朝鮮人・朝鮮人、メディア、民主党、エリート主義などを他者化する形で表れていたと解釈できる。しかし、その対象は固定的なものではなく可変的であるとされる。最近、安倍首相や朴槿恵大統領を擁護し続けてきた「2ちゃんねる」と「イルベ」掲示板では、安倍首相や朴大統領を非難する書き込みが目立ってきたのがその例である。安倍首相が慰安婦問題と関連し「意外に」融和的な姿勢を見せていたため、ネット上の保守層による「裏切られた」という反応が見られた。同様に、女性部の支援、多文化政策などを標榜した朴大統領の政策とも左へ動かされているため、朴槿恵離れを起こしていると解釈できる。

4. 結論と今後の課題

本研究ではリサーチ・クエスチョン 1 として日韓両国のインターネット掲示板で顕著に現れているネタは何であり、ヘイトスピーチの対象が「2ちゃんねる」と「イルベ」の空間を介し、どのような形で発現されているのかを究明した。「2ちゃんねる」掲示板では「在日朝鮮人」「民主党」「マスメディア」を他者化していた。「イルベ」掲示板の場合は、ミクロな観点からみると、「左派」「民主党」「全羅道地域」「北朝鮮」を他者化しているが、マクロな観点からみると朴正熙の「経済成長の神話フレーム」と金大中・盧武鉉の「政治民主化の神話フレーム」の間で克明な対峙を示している。次に、リサーチ・クエスチョン 2 では、リサーチ・クエスチョン 1 をもとに、これらの掲示板の思考体系において共有されている背景は、どのようなメカニズムがあるのかを解き明かした。「2ちゃんねる」と「イルベ」という極右サイトと、文化的他者との間には「こっち側」と「向こう側」の「境界」が強固であり、その境界に横たわっているのが「国家」である。問題は、極めて一方的に偏った愛国心の発露が反民主主義的・反知性的な方向へと流れているということである。「2ちゃんねる」では、日本における戦後民主主義を否定し、戦後民主主義の価値を擁護する立場に立つ集団を「左翼」「反日」「売国奴」とレッテルを貼って攻撃していた。「イルベ」の場合も、民主化などを否定してまで独裁政権時代へ回帰したいというメカニズムが読み取れた。また、「民主化」や「産業化」という命名の方式を通じて、内集団と外集団の区別がより明確化したことが分かる。

今後の課題としては、高度経済成長からの恩恵を受けた世代とその恩恵を受けられなかった層との境界線に「世代の区分」という要因が大きく関わっているとされる。そこで、社会流動化の過程で派生した「世代間の格差」という要因が、今のネット右翼の思考体系とヘイトスピーチ言説にどのような影響を及ぼしたかを検討することは、重要な課題であるが本研究では扱っていない。この点が研究の余地があるだろう。

参考文献

- 1) 樋口耕一(2014):『社会調査のための計量テキスト分析』, ナカニシヤ出版
- 2) 樋口直人(2014):『日本型排外主義: 在特会・外国人参政権・東アジア地政学』, 名古屋大学出版会
- 3) 山崎望(編)(2015):『奇妙なナショナルリズムの時代: 排外主義に抗して』, 岩波書店